

秋の彼岸によせて

令和二年九月 大乘寺 長老 岡 光俊

今、全人類は共通の課題を突きつけられています。

年齢、性別、人種、貧富、社会的立場、人間が作りだしたすべての価値観を越えて。

全世界の医学界、疾病研究機関は権利や競争を越えて、情報共有、協調のもとで新型コロナウイルスに対応しています。

お互いの情報をオープンにし、あらゆる変化に対応し、研究結果を報告、共有し合う考えかたや体制は今までにはなかった流れといわれています。

このように、協力する姿勢を見ることがありますが、感染者に対する誹謗中傷が報告され、行き過ぎた状況に、「差別をしないように」と、わざわざ注意を呼びかけなければならぬような状況に陥っているのも事実です。

この違いは何故起こるのでしょう。

防護服を身に纏った医療従事者も感染するウイルス。

先日、三カ国でウイルスに感染されたかたが治療のあと陰性と診断され、三ヶ月から六ヶ月後に再び陽性となった事例が報告されたそうです。

ウイルスは、人間の免疫をすり抜けるように体内で変化するという報告がされていました。

今こそ、皆が協力、協調の気持ちを持つことが必要です。

報告された賢いウイルスであることを深く理解し、自分がいつ感染するか全く解らないことを冷静に受け止め、感染者、その家族をも守ってゆかなければ、ウイルスの思うツボとなるでしょう。

ウイルスによる肉体への攻撃。誹謗中傷ひぼうちゆうしやうによる精神への攻撃に導かれぬように、心しなければならぬときではないでしょうか。

このようなときにこそ、命の尊さ、守ることの困難さ、人間の協調と信頼、節度、努力の重要性を認識し、長い道を歩まなければなりません。

この命は、何百年何千年と皆さまがご先祖さまから引き継がれた命、ご先祖さまが下さった命。

秋の彼岸、心静かに、心穏やかにさせて下さるのが、ご先祖さまへの感謝の心です。

静かに墓前に向き合い、ご自身の命の尊さ、今日までの安穩あんのんな日々を手を合わせ、全人類、皆同じ願いであることを想い、差別や偏見を一掃する機会となり、その心が広がりゆく波のごとき力強さと共にコロナの収束に繋がってゆけばと念じたいものです。

合掌